

「俳句はじめてみませんか」

◎ 俳句は、五（上五）・七（中七）・五（下五）合わせて十七音で詠む世界で一番短い詩です。

きつて

○「キャ」「キヤ」「キヨ」などは、二文字で一音と数えます。「切手」などの小さい「っ」は単独で一音に数えます。 ※ファッションショーは九文字ですが六音です。

○俳句の五・七・五は和歌の三十一音つまり上の句の五・七・五と下の句の七・七から生まれま

した。この上の句と下の句を交互に詠む連歌が誕生して、連歌のスタートの五・七・五

（発句）が独立して後に俳句と呼ばれることになりました。発句の約束事は現在の俳句にも継承されております。

とらぎ

ことば

発句は詠まれる当座（その時、その場）の季の詞を詠みこむこと。

切る意識をはっきりさせる切字を用いること。

きれじ

表現の格調をだいにすること。

○俳句は一句一季語で詠みます。

言い切る、言い止めることを意識して詠みます。

代表的な切字「や」「かな」「けり」は一句に一つだけ入れて詠むようにします。

十七音の一句で鑑賞に耐え得る堂々とした表現をします。

◎季語は俳句のかなめです。

例えば ふだん着でふだんの心桃の花 細見 綾子

「桃の花」が春の季語です。春という季節を示しています。

桃の花のほっこりとした感じがふだん着でゆったりと過ごす明るさとおだやかさにぴったりです。

○秋の季語（ほんの一部を抽出します。）

「時候」 秋、立秋、新涼、爽やか、身に入む、夜寒、秋深し、行く秋

「天文」 秋の日、秋晴、颯雲、月、名月、十六夜、秋風、天の川、秋の雨、稲妻、霧、露

「地理」 秋の山、花野、秋の田、秋の水

「生活」 七夕、新米、秋の灯、稲、盆踊、愁思

「行事」 秋祭、盂蘭盆会

「動物」 鹿、渡り鳥、雁、鴟、秋刀魚、法師蟬、蜻蛉、こころぎ、きりぎりす、みのむし、虫

「植物」 もくせい、むくげ、桃、柿、葡萄、栗、紅葉、木の実、菊、稲、萩、芒、まんじゅしや

げ、桔梗、おみなえし、茸